

赤間関最古の神社稻荷神社



末廣稻荷神社は、平安時代から赤間関最古の神社として地域の繁栄と守護神として信仰されてきました。

神社の麓はもと稻荷町といって、日本の廓の発祥の地ともいわれています。

下関は江戸時代の初め頃から北前船の寄港地となり、西の浪速(大坂)と称されるほど繁栄し、稻荷町の名は全国に鳴り響いていたのです。